

中核市移行記念座談会

元気で楽しい魅力ある前橋の実現へ

本市は、中核市としてスタートしました。県から約2,200項目の事務が移譲され、市民に一番身近な市役所で展開し、より充実したサービスを提供していくこととなります。新生・前橋市などについて、市医師会長の石田稔さん、中部地区保健推進員の竹内有利子さん、高木政夫市長の3人が対談しました。

問い合わせは 市政発信課 ☎898-6642



中核市・前橋がスタート

市長 前橋市は、本日、4月1日、県内初の中核市に移行しました。政令指定都市に次ぐ事務権限を持つ中核市・前橋として、新たな第一歩を踏み出したところでは。



高木 市長

中核市には地方分権時代の自治体として先導的な役割や、地域発展のけん引役としての役割が期待されています。特に、本市は、行政サービス調査で全国806市区中第14位、県庁所在地では第1位になりました。中核市移行により県から移譲された約2,200項目の事務権限を最大限に生かし、暮らし優先の施策をさらに充実させ、市民ニーズに沿った質の高い行政サービスを提供します。「第六次総合計画」に基づく将来都市像「生命都市いきいき前橋」の実現に向けて、職員一丸となって努めていきます。

本日は中核市移行、富士見村との合併や市保健所設置に対する今後の行政展開への期待などについて、意見交換ができればと思っています。

石田 中核市になって、市保健所設置など市として新たな事業に取り組ま



石田 医師会長

だくことは病気を予防するためにすぐいいことであると思います。これらの体操は自治会などで一生懸命取り組んでいる所もあり、市民や地域の力が必要であると思います。市保健所が設置されることにより、より身近で、一貫した健康増進ができると思いますし、今後期待していきたいところです。

市長 前橋の市民力・地域力は非常に高いと考えています。各地域での活動が活発です。健康づくりには、健康運動を行っていただき、健康年齢の引き上げをしていただければと考えています。

食の安全・農業都市前橋



竹内 保健推進員

竹内 健康という食も大きな要素であると考えます。昨年は、食品偽造や輸入食品の安全性が大きな問題となりました。食の安全についてはいかがでしょうか。

市長 食の安全・安心を確保すること

ます。また、第六次総合計画の中で生命都市いきいき前橋のキャッチフレーズを具現化するために医療の分野では、昨年度から新さわやか健診制度、中学卒業までの通院を含めた医療費の無料化などを実施しています。これらは、さらなる市民の健康増進につながると期待しています。

竹内 現在、18歳と13歳の子どもを育てています。医療費の中学卒業までの無料化については、中学生がいるので非常にありがたいと思っています。また、おとしオープンした前橋プラザ元気21内の子育て広場のプレイルームは、10年前にオープンしていたら、家も近いので毎日のように行くと思うほどの良い施設、夢のある施設であると思います。

市長 ありがとうございます。本市は昨年度から第六次総合計画をスタートさせました。将来都市像を生命都市いきいき前橋とし、暮らし優先の施策を推進しています。この中核市移行を契機として、市民に身近な市役所で一体的に行政サービスを行えることになり、今後も暮らし優先の施策を推進していこうと考えています。

医師会として中核市に向けての抱負

石田 医師会としては市民の健康を守っていくことが使命です。前橋市は昨年度から新さわやか健診として、独自の検査項目を増やした健診をスタートさせました。医師会としては、いろいろ提案した経緯があり、その充実した

は非常に大切です。市保健所では、食品監視指導計画という食の安全安心に関する1年間の計画を立て、食品関連施設の許可や立入調査、食品の衛生的な取り扱いについて、市で直接、監視や指導していきます。

また、本市は国内有数の農業生産高を誇る都市です。食の安全・安心を確保し、力強い農業を推進していきたいと考えています。学校給食で地元食材の利用を高めることや食育、地産地消を推進していきます。さらに、農産物のブランド化も積極的に進めていきたいと考えています。

学校教育について

石田 健康という、運動、休養、栄養が3つの大きな要素であり、食の安全・安心も、大きな比重を占めます。朝食を取り学校へ行く、規則正しい生活を、運動をするといった生活の基本ができたうえで勉強に集中できると思います。学校教育などの新たな取り組みについてはいかがでしょうか。

市長 中核市移行で、教員の研修制度などが市で行えるようになりました。子どもたちの基本的な生活習慣の定着と基礎学力の向上を図っています。

富士見村との合併

石田 中核市への移行後、5月5日(火)

健診制度がスタートしたことは非常に評価をしているところです。

また、本年度中には群馬大で重症粒子線治療が始まると思います。市民の皆さんにもこの治療について十分にご理解いただくためにも群馬大と連携をしていけたらと思います。

子育て世代としての期待

竹内 安心して子どもを産める環境づくりとして、無料妊婦健診の回数の増、不妊治療に対する助成などを実施していますが、子育てをするなら前橋市という施策を今後も充実していただきたいと思っています。

夜間診療は早急に対応してもらえ中学生までは無料なので、すごくありがたいと思っています。転勤などで前橋に来た人も安心して子育てができて生活がしやすいと話しています。

市長 市民の健康を守るという点については、医師会や関係機関との強力な連携を図り、市保健所もオープンしたわけですから、今後さらに推進していくと考えています。医療制度だけでなく、「元気ひろげたいそう」や「ピンちゃん！元気体操」などの健康運動を展開していきます。

市民力・地域力を生かした健康づくり

石田 最近予防医学という考え方が、病気になる前に、健康であるためにできることもたくさんあります。元気ひろげたいそうなどを普及していた

には富士見村との合併があります。地域も広がり、人口も34万人と増えるわけですが、医師会としても新生・前橋市の市民の健康増進に貢献していきます。

竹内 富士見村との合併で一番イメージしやすいのは、「赤城山」という新たな観光資源です。遠くに見えていた赤城山が前橋市になり、今まで以上に自然豊かな都市になります。今までにない大きなメリットがあると思います。

市長 本年度は、中核市への移行、富士見村との合併で幕を開け、大きな飛躍の時であると考えています。効率的で質の高いサービスを行っていくための施設の一つとして、前橋プラザ元気21内の証明サービスコーナーも4月1日からリニューアルしました。土日曜祝日の住民票などの発行に加え、郵便や電子申請で請求のあった税証明の受け取りが可能になりました。

本市は市民力・地域力の非常に高い都市であると思います。市民の皆さんの期待に応えられるよう、地域、市民と連携し中核市として出発していきたくと思っています。中核市への移行は、それ自体がゴールではなく、新たなステージのスタートと考えています。前橋市に住んで良かったと思っていただけるよう、県から移譲される事務権限を最大限に生かし、「元気で楽しい魅力ある中核市・前橋」の実現を目指してまいります。

本日はどうもありがとうございます。